

令和七年の師走を迎えて、いよいよ「終活」の準備をしなければと考えています。実父が平成十一年七月に七十七歳で亡くなりました。父とは三十歳違いですから、後三年半で、七十七歳。逆算すると、今が亡くなる三年半前ということになります。

碩学、安岡正篤先生は、「その人の亡くなる前三年間は、カウントしないこと」と教えて下さっています。老衰・ボケ・障害等々で、終末期は正しい判断が出来ないからだそうです。

私も今年二月に、税理士登録、満四十年の会計人人生のけじめとして、税理士資格を返上したのもその一つです。

毎月、関西の各地で開催させていただいた各種勉強会を、一部を除き大半を終了させて頂いたのも、そろそろボケが出ると感じたからです。

振り返れば、その時々判断基準には『真・善・美』があったように思います。師匠や先輩から教えられた学びでもあります。

これは「真」であるか？ 自分の魂に問い真実・真理であるか。歴史に耐えられるか。天に愧じないか。ゆめゆめ損得や利害得失で判断していかないか。を自分自身に問いかけます。次に、これは「善」であるか？ 真心が喜ぶことか。人間として善いことか。間違っても悪に加担することはないか。と問いかけます。

最後に、これは「美」であるか？ 男の美学に叶っているか。醜悪なことはないか。と問いかけます。

社長を相手に語る者として相手の心を「真・善・美」にすることが、こちらの側になくてもならないと自分を戒めて来しました。

先月に起きた、中共の大阪総領事「汚い首斬る」事件を参考に検討して見ましょう。「旧敵国条例」を引き出し（中共は昭和二十四年の建国であり、当時は国の実態は有りません）敗戦国の果たすべき承服義務を反故にしていると発言しています。

「真」の真逆の偽・嘘を堂々と語っています。もし、日本の大使が、習近平にこのような発言をしていたとしたら、中共は黙っているでしょうか。

「善」は全く無く、悪で凝り固まっている哀しい国です。

「美」など、求めてもありません。当に醜で攻めて来る国です。

幸い、日本は総理に高市早苗さんを戴いています。これも、天の采配だと思えてなりません。

社長、判断基準に『真・善・美』を持ち、正々堂々の人生を生きて参りましょう。

社員さんにも、日本人としての自信と誇りを伝える機会にして参りましょう。

終戦八十年の締め括りの年です。明るく輝かしい、令和八年を迎えましょう。

社長、一年間、お世話になりました。

今月のポイント

一年を振り返り、

来年に備えましょう。

